

教材教具名	レシート情報 (PP)	教科 (数学)	情報提供者 (
-------	-------------	---------	---------

教材教具写真

The first image shows a receipt from '小れ愛ナガ' with red boxes and arrows pointing to specific information: 'お店のなまえ' (store name), 'お店のめんわばんごう' (store address), '買った品物' (purchased items), 'ねだん' (price), 'はらう金額' (amount to be paid), and 'おつり' (change). The second image shows a ledger with columns for '日付' (date), '品物' (item), '収入 (円)' (income), '支出 (円)' (expense), and '残金 (円)' (balance), with arrows indicating data transfer from the receipt. The third image shows a calculation table with the following data:

日付	品物	収入 (円)	支出 (円)	残金 (円)
	おこづかい	1000		
	ビストレ		136	
	パン		150	
	おこづかい	200		
		1200	286	914

Annotations on the table include: '収入をたし算した、合計金額を書く。1000+200=1200' (Income added, total amount written. 1000+200=1200), 'ねだんをたし算した、合計金額を書く。136+150=286' (Price added, total amount written. 136+150=286), and '残金を計算して金額を書く。1200-286=914' (Balance calculated and amount written. 1200-286=914).

教材教具の概略 (ねらいと使い方) ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- ねらい
  - ①レシートの情報を読み取ることができる。
  - ②「収入」「支出」「残金」を正しい欄に記入することができる。
  - ③計算機を使って合計金額、残金を計算することができる。

2 発達段階など

6人のグループを3つに分けて授業を行っている。四則演算ができる生徒から器具を使えば6までの計算ができる生徒までいる。計算が苦手な生徒も計算機の扱いは可能であり、「たす」「ひく」のキーワードを言葉がけすれば計算は可能。また、大きな数も理解はできている。つまり、数の操作が苦手な生徒が含まれているということになる。

3 使い方

PPは一斉指導で使用した。レシートの写真を最初に見せて、分かる情報を発表させた。それに合わせて赤い枠などが出るようにし、視覚的に目立つようにした。また、おこづかい帳に書く項目は色を別にしている。次に、おこづかい帳の写真を横に写しながら、どれをどの欄に書くのかを生徒に聞きながら指導したり確認したりした。これも、項目ごとに色を分ける工夫をした。最後に、実際に生徒に発表させながら数字を入れた。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等 (次に利用する方のために)

色分けがされていたので、生徒はどこに注目すればよいか分かりやすかったようだ。また、自分たちが利用したことのあるお店のレシートを使うことで、興味が持ちやすく発表も活発に行うことができた。PPということで、生徒の発表を待つ確認することもできるので、即時のふり返りも可能である。

この指導の後に実際にレシートの情報を読み取り、おこづかい帳に記入することを行った。また、どんなレシートでもある商品名、値段等を正しい欄に記入することができるようになった。